令和3年7月27日　讀賣新聞（朝刊/29面/地域）
商大生への食料日用品支援について

食料日用品配布
小樽商大生支援
4団体実施

コロナ禍で経済的に苦しむ大学生を支援しようと、食料や生活用品の無料配布が、小樽商科大（小樽市緑）で行われた。連合北海道や道生活協同組合連合会など4団体が、「ほっかいどう若者応援プロジェクト」の一環として実施した。

会場には、米2キロ入りの袋やパスタなどの主食用食品のほか、魚の缶詰などの副食物、ハンドソープなどの日用品計約20種類の品物が置かれた。事前に申し込んだ学生200人が次々に訪れ、感謝の言葉を述べて、持ち帰った。

1年生の山本剛さん（18）は「アルバイトをしていた飲食店が休業し、奨学金でやりくりしていた。非常にありがたいです」と話した。無料配布は21日に行われた。

令和3年7月27日　北海道新聞（朝刊/14面/地域の話題）
本学卒業のミュージシャン　おがわとーる氏の名前が記載

FMおたる開局25周年

地域密着 頼れる存在に

小樽の地域放送局「FMおたる」（76・3メガヘルツ）が27日、開局25周年を迎える。地域密着の姿勢を貫き、2018年9月の胆振東部地震の発生直後は、特別番組に切り替えて生活情報を提供。昨年からは新型コロナ関連の情報を連日伝えるなど、楽しいだけでなく、災害や非常時には「頼れる存在」として市民に親しまれてきた。スタッフたちは「これからもリスナーの知りたい情報を、生の声で伝え続ける」とし、節目の年に気持ちを新たにしている。（鈴木孝典）

災害、コロナで活躍

27日で開局から25周年を迎える「FMおたる」のスタジオ

FMおたるは地元有力企業などの出資で設立され、1996年の第30回おたる潮まつりに合わせて放送を スタート。現在は北一硝子の子会社になっている。当初は堺町に構えていた放送局は、2010年に旧小樽短期大跡地（入船4）に移転した。20年からは小樽商科大卒のミュージシャンおがわとーるさん(47)が局長に就任。スタッフ6人が、外部スタッフ・パーソナリティー約50人と番組を制作している。

特に存在感を発揮したのは災害時で、胆振東部地震の際には、被害状況や停電情報などを65時間にわたり発信。リスナーからメールなどで寄せられた情報を基に、停電が早めに復旧した市内の寺院や仏壇店などでスマートフォンの充電ができることを伝えるなど、市民が必要としている情報をいち早く伝えた。昨年3月には北海道新聞社と協定を結び、災害時には道新の記者が取材、記事化した情報も伝えられるようにした。

今は新型コロナウイルス関連の情報も手厚く扱っている。市内の新規感染者数は平日の朝夕に、確認された患者数がゼロの日も含めて必ず発信するほか、土日祝日もクラスター発生時などは番組内容を変更する。保健所の職員をゲストに招いた番組も放送した。

インターネットが全盛の時代だが、おがわ局長は「ネットを使いこなせない高齢者など、ラジオを求めている層は確実にある」と指摘。リスナーの信頼を勝ち得るために①情報の中立性②定期的に発信する―ことを重視し「録音ではなく、今、この場でしゃべることの力を信じ、これからも市民の役に立つ情報を発信したい」と力を込める。

「知りたい情報発信 生の声でこれからも」